

## 教科化時代の道徳教育と道徳科の概要

後藤 忠

### 1 学校における道徳教育の基本的な考え方

#### 道徳教育の基本的な考え方は今までと変わらない

- ① 道徳教育は、教育基本法、学校教育法の精神に基づいて行われる。
- ② 学校で行う道徳教育は学校の教育活動全体を通じて行う。
- ③ 道徳科は学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要としての役割をもつ。道徳科の指導に当たっては、各教科、(外国語活動)、総合的な学習の時間及び特別活動などとの関連を考慮し、計画的・発展的な指導によって、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を補ったり、深めたり、内容項目相互の関連を捉え直したり、発展させたりすることに留意する。

### 2 「第1章 総則」に示された道徳教育について

- ① 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育に関する事項は全て「第1章 総則」に記載された。
- ② 道徳教育の目標がシンプルに、具体的に示された。  
「自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育てる」
- ③ 今まで道徳教育の目標に位置付けられていた「人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念…」等の記述は、すべて「留意事項」の中に位置付けられた。
- ④ いじめ問題への対応を重視した内容項目の重点化が示された。

### 3 「第3章 特別の教科 道徳(道徳科)」に示された道徳教育について

#### (1) 「目標」に道徳科での学習と育てるべき道徳性が具体的に示された

「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ<sup>①</sup>、物事を(中学校：広い視野から)多面的・多角的に考え<sup>②</sup>、自己の生き方についての考えを(中学校：人間としての生き方についての考えを)深める<sup>③</sup>学習を通して道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

\*道徳的諸価値(内容項目)についての理解とは、

- ① 内容項目は人間としてよりよく生きる上で大切なことだと理解する。
- ② 道徳的価値は大切だが、なかなか実現できない人間の弱さがあることを理解する。
- ③ 道徳的価値を実現したり実現できなかったりした時の感じ方や考え方は多様であるという前提で理解する。

- \***道徳的な判断力**・・・それぞれの場面において、善悪を判断する能力。
- \***道徳的心情**・・・善を喜び、悪を憎み、善の実現を志向する感情
- \***道徳的実践意欲と態度**・・・**道徳的実践意欲**は、豊かな道徳的心情と確かな道徳的判断力をもとに、道徳的価値を実現しようとする意志の働き。  
**道徳的態度**は、それらに裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え。

(2) **「内容」の示し方が次のように変わった**

- ア 「1～4」だった視点の表示が「A～D」となり、その順序が
  - A 主として自分自身に関すること
  - B 主として人との関わりに関すること
  - C 主として集団や社会との関わりに関すること
  - D 主として生命や自然、崇高なものとのかかわりに関すること
 となった。
- イ 小学校は「学年ごと」の内容の示し方が「視点ごと」の示し方へ変わった。
- ウ 内容項目に〔キーワード〕が付いた。
- エ 内容項目の文末が全て「こと」になった。
- オ 特に、A,B内の内容項目の配列が大きく変更された。
- カ 内容の表現が情動的な表現から理知的な表現へ変わった。

(3) **道徳科の学習の学習内容、学習活動、指導方法等が1部具体的に例示された**

- ア 「問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習」
- イ 「身近な社会的課題を自分との関係において考え、それらの解決に寄与しようとする  
(中学校：その解決に向けて取り組もうとする) 意欲や態度を育てる」